



臨床研究に関する情報の公開

作成日:2020/01/25

研究課題名	JCS stage II, IIIの閉塞性大腸癌における術前腸管減圧目的の大腸金属ステント留置症例での中長期予後に関する観察研究
研究の対象	2013年1月から2017年3月までに当院で外科的大腸原発切除術を施行し、病理学的に病期IIまたはIIIと診断した閉塞性大腸癌の患者様です。
研究目的・方法	<p>閉塞性大腸癌は全大腸癌の約7~29%程度に存在するとされ、非閉塞性大腸癌と比較して予後が悪いことが報告されています。また、腫瘍による腸閉塞を併発しており、早急な腸管減圧が必要となりますが、短期的な観点からは大腸ステント留置による入院期間の短縮や併発症の減少などの有用性が報告されています。しかし、長期予後の観点からは大腸金属ステント使用の是非については未だ明確になっていないのが現状です。</p> <p>当院での閉塞性大腸癌に対する術前腸管減圧法として大腸金属ステント留置と他の方法を行った症例の中長期的な予後を比較検討することで、それらの有用性を比較できます。また、転移・再発形式や予後の違いから、術前腸管減圧法のより適切な選択を行うことが出来る可能性が考えられます。研究期間は医の倫理委員会の承認及び病院長の許可後から2021年3月31日までと致します。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>評価項目：術前腸管減圧を要した閉塞性大腸癌患者の減圧法別の3年無再発生存率</p> <p>情報：性別、年齢、腫瘍径、無再発生存率、転移・再発形式等</p> <p>試料：使用致しません</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>田附興風会医学研究所北野病院 消化器センター 消化器内科 〒530-8480 大阪府大阪市北区扇町 2-4-20 TEL 06-6312-1221 FAX 06-6361-0588</p> <p>研究責任者：</p> <p>田附興風会医学研究所北野病院 消化器センター 消化器内科 医員 渡邊 幸太郎</p>